

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	4
学校名	富山県立魚津高等学校

学校の現状と課題	本校では「自ら課題を発見し、他者と協働して解決に取り組む力」の育成を目指し、探究活動を推進している。地域課題解決型の取組により、生徒の主体性や協働性は向上したが、リサーチクエスションの設定やデータ分析、先行研究などアカデミックな探究の側面や、理系・STEAM的アプローチが十分でない。今後は科学的思考力や情報活用力の育成、教員支援体制の整備を図り、探究の質向上をめざす。	
テーマ(特色)	文理横断型の探究を通じて、リサーチ力・データ活用力を育成し、地域と連携したSTEAM的課題解決に挑む生徒の育成	
設定した「テーマ」の達成状況	生徒は探究活動を通して、データ収集の方法や、データの大切さを学びデータリテラシーについて少しずつ自信を持つようになってきている。また、データの活用方法を工夫することで、自分の意見を裏付ける証拠や説得材料になることなどを実感しながら、自ら設定した課題に積極的に取り組もうとする姿勢が身についている。	
実施内容 (具体的に記入する)	1年生では、外部教育機関の協力のもと、課題発見・問いの立て方に重点を置いた基礎探究力の養成プログラムを実施し、探究の入口段階からSTEAM的観点を意識した設計を行う。2年生は本格的な探究活動に取り組む時期であり、実社会課題に対しリサーチクエスションの設定から仮説検証、データ収集・分析、考察・発信までを重視するプロセスを通じ、論理的思考力・課題解決力を深める。理系的視点を育てるため、データサイエンスや統計に関する基礎講座、科学的な情報収集・検証の指導を強化する。実社会と連動したプロジェクト学習を展開する。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	1学年は「情報活用能力の育成とデータリテラシー」をテーマとした講座を受講し数字の読み取り方や注意点、活用の仕方について、一定の知識やイメージを身につけた。また、「情報活用能力」「思考の可視化」「DXリテラシーの実践的体得」をテーマとした別の講座では、探究活動に必要な情報収集・分析・考察・発信のスキルを育て、次年度への学びにつなげる力を養った。 2学年は32グループに分かれ、問いの設定から、仮説を立て、検証を行うなど本格的な探究活動に取り組んだ。探究の過程において、解決に必要な力を少しずつ身につけ、協力しながら問題解決を進めていた。また、地域の人たちとつながり、助言を求めながら積極的にコミュニケーションをとり、様々な視点から問題に取り組むことの重要性に気づききっかけを得ていた。	
対象者(学年・人数など)	1年生160名・2年生159名・全教職員	
実施実績	4月	1学年 探究を知る 2学年 情報の収集
	5月	1学年 身近な疑問やテーマを探る 2学年 リサーチクエスションの作成
	6月	1学年 実際に課題解決の試みを行う 2学年 リサーチ計画の立案
	7月	1学年 実践の成果を共有し、改善点を見つける 2学年 調査活動の実施
	8月	2学年 フィールドワーク(各班)
	9月	1学年 2年次へ向けたテーマ探し 2学年 中間発表
	10月	1学年 データサイエンス講座 2学年 改善案の検討と計画立案
	11月	1学年 問を立てる力を養う 2学年 探究内容の深化と再調査
	12月	1学年 探究テーマの絞り込みと分類 2学年 最終発表準備
	1月	1学年 全体共有と最終調整 2学年 最終成果報告会
	2月	1学年 調査計画の発表と共有 2学年 振り返り
	3月	成果と課題の振り返りと次年度に向けて